

第3期岩倉市地域福祉計画 令和7年度進捗評価シート

基本目標	1 市民の参画による支え合いの地域(まち)づくり
施策	(2) 支え合いの担い手の育成

<現状と課題>

・本市の人口は、近年横ばいで推移していますが、高齢化率は上昇しており少子高齢化が進んでいます。このような中、地域における支え合い・助け合い活動や地域組織においても担い手の高齢化や活動者の固定化等がみられるようになっていきます。 ・地区懇談会では、身近な地域での支え合い・助け合い活動やつながりの必要性・重要性について話し合いました。一方で、活動の負担感や、令和2年度以降には新型コロナウイルス感染症の影響により交流活動の多くが休止・縮小を余儀なくされたことなど、様々な活動上の課題もあげられています。 ・本市では、協働によるまちづくりを推進し、市民を主体とした自治の実現を図ることを目的に平成24年度に「岩倉市自治基本条例」を制定しました。さらに、平成27年度には「市民参加と協働」について定めた「岩倉市市民参加条例」を制定しました。「第5次岩倉市総合計画」では基本理念として「マルチパートナーシップによる誰もが居場所のある共生社会をめざす」ことを掲げており、多様な主体が役割を分かち合いながらまちづくりを進めていくことを目指しています。 ・本市における協働のまちづくりの考え方を基本としながら、地域における支え合い・助け合い活動の担い手を増やし、すそ野を広げていくこと、そして活動継続のための様々な支援や市民の主体性を育む仕組みづくり等が必要です。
--

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	指標数値根拠 担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
地域貢献活動、ボランティアなどを目的とした生涯活動に自分が取り組んでいると「大いに感じる」、「感じる」市民の割合	7.1%	-	-	-				15.0%	第3期地域福祉計画策定に合わせて実施したアンケート指標のため実績なし。	市民アンケート 福祉課

単位施策:04 ボランティア活動への支援

・福祉に関するボランティア活動について、情報発信や人材育成、相談対応、コーディネート、活動継続のための支援を行います。また、市民ニーズや社会情勢に応じたボランティア活動の活性化を図ります。										
成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
ボランティアセンター登録者数	4,504 人	3,940 人	3,886 人	3,410 人				4,800 人	登録団体数、登録者数ともに減少した。新たなボランティアの発掘や育成に比べ、ボランティア団体メンバーの高齢化による活動縮小などに伴い登録数が減少した影響が大きいと考えられる。	社会福祉協議会
事業								取組内容及び成果		課題及び今後の方向性
●ボランティアセンターの運営				社会福祉協議会				運営委員会を2回開催し、ボランティアセンター運営に関する事項を検討し事業を実施。		地域課題の把握に努めるとともに事業運営を行う。

●ボランティア養成講座	社会福祉協議会	点訳ボランティア養成講座（修了者5人）、精神保健ボランティア養成講座（修了者4人）、災害ボランティア講座（受講者44人）を実施した。	地域課題から必要なボランティア講座を検討する。
●公益的活動を行う市民への支援	協働安全課	協働に関する事業として、主に行政区役員を対象とした地域リーダー協働講演会、市民向け協働セミナーを開催し、市民の意識醸成と育成を図ることができた。 市民活動の拠点として、市民活動支援センターにて市と市民等をつなぐ中間支援を実施した。	引き続き、講演やセミナーを開催するほか、市民活動支援センターと連携し、支援のあり方を検討する。
●その他			

単位施策:05 市民団体の主体的活動の活性化

・市民のまちづくり活動や地域の生活課題解決のための主体的な活動を促進するための支援を行います。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
市民活動支援センターにおけるマッチング件数	3件	2件	13件	7件				10件	新たなマッチングは減少したものの、過去からの相談も継続して支援しており、将来的な増加を見込む。	協働安全課

事業		取組内容及び成果	課題及び今後の方向性
●市民活動支援センターにおけるマッチング支援	協働安全課	市民活動支援センターにおいて、市民活動団体等を結びつける仕組みとして「まちづくりネットワーク」を運営し、市民人材を活用するマッチングを行った。また、3月から自由な語り場として「徳得とーくルーム」を開始し、団体間のより一層のつながりを創出する場を作ることができた。	マッチング件数を増やすため、既存の取組の更なる周知が必要である。また、新たに開始した「徳得とーくルーム」などを通し、団体同士がつながる機会を増やしていく。
●公的活動を行う市民活動団体への支援	協働安全課	市民活動助成金について、次年度事業の募集と審査を行うとともに、令和7年度事業は、「行政提案・協働事業コース」を含む6団体へ助成を行い、市民活動の活性化を図った。加えて「立ち上がり支援コース」を改定し、活動のスタートアップ支援を拡充した。 広報活動としては、広報紙や市役所及び岩倉駅東西地下連絡道にあるモニター、市民活動支援センターのホームページ、SNS、情報誌「かわらばん」を活用	市民活動助成金は、随時コースの内容を見直しながら継続実施する。 市民活動支援センターと連携し、団体支援の内容の充実に努めていく。

		し、市民活動の紹介と参加促進に努めた。 また、市民活動の拠点として、市民活動支援センターにて市と市民団体をつなぐ中間支援を実施した。 「市民プラザまつり」や「65歳の集い」のほか、福祉関係の登録団体の活性化支援講座（全7回）や交流会を実施し、団体の活動支援に努めることができた。	
--	--	---	--

●その他		
------	--	--

単位施策:06 住民同士の支え合い

・高齢者や子育て家庭等の支援を必要とする人を支える人材を育成するために養成講座等を開催します。各種の支援を行う人材が充実するよう、情報の発信をするとともに、役割の重要性についての啓発等を行います。

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
認知症サポーター養成講座受講者数 (累計)	8,333 人	9,137 人	9,334 人	9,632 人				10,000 人	継続的に講座を開催し、累計受講者数も順調に増加している	長寿介護課

事業		取組内容及び成果	課題及び今後の方向性
●認知症サポーター養成講座の開催	長寿介護課	基本目標1市民の参画による支え合いの地域(まち)づくり (1)支え合いの意識づくり 単位施策-01 福祉教育の充実の再掲	
●いきいき介護サポーター	長寿介護課	-	-
●シルバー人材センター	長寿介護課	シルバー人材センターに対し、職員派遣を行い、人員体制の強化支援を図るとともに、補助金を交付し、活動の支援を行った。	引き続き、シルバー人材センターに対し、職員派遣を行うとともに、補助金を交付し、活動を支援していく。
●ホームスタート事業	こども家庭課	ホームビジター養成講座に係る費用を補助することでボランティアの養成に寄与した。また、養成講座の一部では、市職員が講師を務めた。	引き続き NPO 法人の活動を支援し、ボランティアの養成を図る。
●ファミリー・サポート事業	こども家庭課	公共施設にチラシを配布し事業の周知を行い援助会員の募集を行った。	引き続き事業の周知を図り、援助会員数の拡大を図る。
●その他			

単位施策:07 身近な見守り活動の活性化

・地域福祉推進の担い手として、民生委員・児童委員活動の活性化を図ります。また、市民や地域団体、事業所等と連携・協力した見守りの仕組みづくりを進めます。

事業		取組内容及び成果	課題及び今後の方向性
●民生委員・児童委員活動	福祉課	一人暮らし高齢者の見守り活動や赤ちゃん	民生委員・児童委員の欠員地区が

					ん訪問事業を通じて、対象者が地域から孤立することのないよう支援を行った。	あることから、引き続き欠員状態の解消を地区に働きかける。
●認知症高齢者等見守り SOS ネットワーク事業				長寿介護課	本事業については、広報紙による周知のほか、地域包括支援センターやケアマネジャーなどを通じ、行方不明となる恐れのある高齢者に対し、積極的に登録を促し、令和7年度は新たに 30 人の方が登録された。また、ほっと情報メールの配信時に、行方不明者本人の写真を添付するなど、効率的な行方不明者の搜索活動につなげた。	後期高齢者の増加に伴い、認知症や介護が必要となる高齢者の増加が見込まれるため、認知症高齢者等見守りネットワーク事業の周知を図り、登録者を増やすとともに、見守りネットワークの更なる充実が課題である。
●高齢者地域見守りに関する協定				長寿介護課	高齢者等地域見守り協力に関する協定を締結した事業者と連携し、高齢者に異変を感じた際に、市に通報してもらうことで高齢者の見守りを行った。令和7年度は新聞店から 12 件の通報があり、早期の安否確認の実施につながった。	後期高齢者の増加に伴い、認知症や介護が必要となる高齢者の増加が見込まれるため、見守りネットワークの更なる充実が課題である。引き続き、見守り協力事業者との連携に努めるとともに、新たな協力事業者を増やし、見守りネットワーク体制の強化に努めていく。
●その他						
事務局評価	取組 3	指標 Ⅱ	評価 C	評価理由	認知症サポーター数は増加し目標値に近づいているものの、ボランティアセンターの登録者数は微減し、市民活動支援センターのマッチング数も目標値を下回った。ボランティア人材の発掘や育成、ニーズに応じたマッチングの促進など、令和 6 年度からの課題に対して引き続き重点的に取り組む必要がある。	
推進委員評価	C			推進委員評価 判断理由・コメント	認知症サポーター養成講座は堅調に推移している。また、点訳や精神保健といった多様なニーズに応じた養成講座の検討・実施は進んでいる一方で、ボランティアセンター登録者数は担い手の高齢化による活動の縮小等の要因により、年々減少している。今後は、社会状況の変化に伴う新たな地域課題に対応したボランティア講座や市民活動支援センターによる支援を通じて、活動の担い手の掘り起こしを進めていくことが課題である。	